



Rotary
関ロータリークラブ

2017-18 年度国際ロータリーテーマ RI 会長 イアン H.S. ライズリー
『ロータリー：変化をもたらす ROTARY: MAKING A DIFFERENCE』
2017-18 年度 関ロータリークラブ会長 テーマ
『温故〈50〉知新』 52 代会長 後藤信介

■ 会長 後藤信介 ■ 副会長 土屋佳久 ■ 幹事 岩倉宏幸



D2630 ROTARY CLUB OF SEKI WEEKLY REPORT

本日のプログラム 第 2498 回例会 2018 年 4 月 10 日 (火)

「3 クラブ合同花見例会」 於：関観光ホテル



**ロータリー：
変化をもたらす**

前例会の記録・第 2497 回 3 月 27 日(火) 18:30

「3 クラブ合同花見例会」 於：関観光ホテル

- ◆ 開会点鐘
- ◆ 「君が代」「奉仕の理想」斉唱
- ◆ 会長挨拶



皆さんこんばんは、本日は三クラブ合同花見例会ということで、美濃ロータリークラブ小川会長はじめ 23 名、関中央ロータリー波多野会長はじめ 21 名、関ロータリー 26 名、合計 70 名と大変多くのロータリアンに参加を頂き誠に有難う御座います。また来賓にガバナー補佐、伊佐地金嗣様ご臨席を賜り誠にありがとうございます。

さて、三クラブ合同の花見例会は 5 回目となり、今回は関ロータリークラブが担当になっています。そして、関市で開催をさせて頂くのは、初めてですが、長良川沿いには素晴らしい桜が見えますが、この会場からは見えませんので、演台の横に花を添えさせて頂きました。至らぬ点が多々有るかと思いますが、ロータリーの友情をもって、ご理解をお願いします。

さて、花見といえば、皆さんは何の花を見に行かれるのでしょうか？おそらくほとんどの方が「桜」と答えるのではないのでしょうか。しかし、花見といえば梅が当たり前という、時代もあったようです。実は奈良時代の花見といえば梅の花が一般的で、奈良時代に作られた万葉集によると、桜よりも梅を詠んだ歌のほうが、多かったそうです。梅の歌は約 120 首あるのに対し、桜は約 40 首で、梅が随分人気だったことが解ります。では、いつから花見には桜が一般的になったのでしょうか？花見に桜が好まれるようになったのは、平安時代で、平安時代に作られた古今和歌集では、梅を詠んだ歌が約 30 首に対し、桜を詠んだ歌が約 60 首、奈良時代とは違い、桜と梅

の人氣が逆転しています。この背景には遣唐使の廃止が関わっています。遣唐使が派遣されていた時代は、中国文化の影響を強く受けていました。梅の花もその一つです。遣唐使が廃止されたことにより、日本独自の文化が発展し始めます。そのため、日本に古くから自生していた桜に注目が集まったわけです。平安時代までは花見といえば貴族の中の文化でしたが、鎌倉時代になると武士たちの間にも広がり、さらに安土桃山時代になると、桜の下で酒宴が行われるようになり、宴会型の花見は、かの有名な豊臣秀吉から始まったと言われています。秀吉は今でも桜の名所として有名な吉野や醍醐寺に大勢の人を招いて大規模な花見を開催しています。実は花見のルーツはもう一つあります。農民の間では、春になると、冬をもたらす山の神様を送り返し、春を呼ぶ田の神様を迎える「春行き」「春山入り」というものが行われていました。具体的には、桜の下で持参した酒や食べ物を飲み食いして、1 日を過ごすというもので、その時、桜の色や開き具合を見て、その年の豊作を占っていたとも言われています。農民の間ではこれが「花見」でした。江戸時代になると、貴族発信の花見と農民発信の花見が、後に融合し、娯楽としての花見に形を変えて定着していったと言われています。如何でしょうか？私達が行っている花見というものは、長い歴史の中で、その時代や、その文化に合うよう、様々に形を変えて、今に至っています。少し感慨深いものがあります。最後に成りますが、今夜は花見やロータリーの歴史的な背景やルーツに想いをはせながら、三クラブの友好に、満開の話の花を咲かせて頂きたいと思います。

次例会のご案内 4 月 10 日 (火) 12:30
「新会員スピーチ」 塚原清文さん
担当：次期会長・幹事

 例会：毎週火曜日 12:30
 例会場：岐阜県関市本町 6-20 大垣共立銀行関支店 2F
 事務局：岐阜県関市平和通 7-10-25 アメリア 2F

3クラブ合同花見例会

平成30年4月3日

